

## R1年度介護ロボット等導入事例

## 導入した介護ロボット等の情報

種別	商品名	メーカー名
見守り	徘徊コールⅢHC-3 MSN1200	(株)テクノスジャパン

## 導入した事業所の情報

利用定員数	介護サービスの種類
146人	介護老人保健施設

## 使用状況及び導入効果等

①介護ロボットの使用状況（使用した業務・使用頻度等）
ベッドから急に起き上がり転倒する危険のある利用者に対して使用している。
②介護ロボットの導入によって得られた効果 ※介護時間の短縮、軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等
台数が足りなかったため、優先順位をつけて使用していたが、5台増えることでより安心した。
③介護ロボット導入に関しての介護従事者の意見 ※介護ロボット導入前との介護業務に係る負担の比較、使い勝手等
センサーマットを使っている安心感で少し余裕が生まれた。
④次年度以降の介護ロボットの使用計画 ※①、②、③を踏まえたうえで、より効果的な次年度以降の使用計画
同様の利用により危険防止につながるのであれば、台数を増やしていきたい。

## R1年度介護ロボット等導入事例

## 導入した介護ロボット等の情報

種別	商品名	メーカー名
見守り	超音波・赤外線コールHUI-R	(株)テクノスジャパン

## 導入した事業所の情報

利用定員数	介護サービスの種類
146人	介護老人保健施設

## 使用状況及び導入効果等

<p>①介護ロボットの使用状況（使用した業務・使用頻度等）</p> <p>○ベッドから急に起き上がり転倒する危険のある利用者に対して使用している。 ○赤外線感知になっているため利用者に気づかれない状況で使用している。</p>
<p>②介護ロボットの導入によって得られた効果 ※介護時間の短縮、軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等</p> <p>センサーに気づき、危険を察知できなかった利用者の危険を防止することが可能となった。</p>
<p>③介護ロボット導入に関しての介護従事者の意見 ※介護ロボット導入前との介護業務に係る負担の比較、使い勝手等</p> <p>センサーが使えないと思っていた利用者の危険を少しでも防止できるようになったことにほっとしている。</p>
<p>④次年度以降の介護ロボットの使用計画 ※①、②、③を踏まえたうえで、より効果的な次年度以降の使用計画</p> <p>同様の利用により危険防止につながるのであれば、台数を増やしていきたい。</p>

## R1年度介護ロボット等導入事例

## 導入した介護ロボット等の情報

種別	商品名	メーカー名
見守り	シルエット見守りセンサ	キング通信工業(株)

## 導入した事業所の情報

利用定員数	介護サービスの種類
29人	小規模多機能型居宅介護

## 使用状況及び導入効果等

<p>①介護ロボットの使用状況（使用した業務・使用頻度等）</p> <p>夜間、転倒するリスクがある利用者の方の居室に機器を設置し、ベッド上のはみ出し、起き上がり、離床を携帯端末で把握することによって、転倒事故を予防する。また、就寝状況を端末で確認することで安眠を妨害しないケアができる。</p>
<p>②介護ロボットの導入によって得られた効果</p> <p>※介護時間の短縮、軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等</p> <p>○従業員のうち100%が導入前と比べ、負担が軽減されていると感じた。 ○従業員のうち72%が導入前と比べ、居室頻度が減少した。 ○従業員のうち100%が導入してよかったと感じた。</p>
<p>③介護ロボット導入に関する介護従事者の意見</p> <p>※介護ロボット導入前との介護業務に係る負担の比較、使い勝手等</p> <p>○利用者の睡眠状態にあわせた訪室ができるようになった。 ○転倒事故予防ができるため、スタッフの心理的な負担軽減につながった。</p>
<p>④次年度以降の介護ロボットの使用計画</p> <p>※①、②、③を踏まえたうえで、より効果的な次年度以降の使用計画</p> <p>次年度は、スタッフの離職対策として腰痛予防につながる移乗支援機器等の導入を検討したい。</p>

## R1年度介護ロボット等導入事例

## 導入した介護ロボット等の情報

種別	商品名	メーカー名
見守り	テルサコール	(株)モルテン

## 導入した事業所の情報

利用定員数	介護サービスの種類
50人	介護老人福祉施設

## 使用状況及び導入効果等

<p>①介護ロボットの使用状況（使用した業務・使用頻度等）</p> <p>足元が不安定になってきた利用者や、夜間のみポータブルトイレを使用する利用者に対して使用することで、必要なタイミングで必要な支援を実践している。</p>
<p>②介護ロボットの導入によって得られた効果 ※介護時間の短縮、軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等</p> <p>○見守り機能により必要なタイミングで必要な支援ができるため、月に数件の事故報告(表皮剥離等)が出ていたものがほとんど発生しなくなった例がある。 ○必要なタイミングで知らせてくれるため、多動・不穏になりやすい利用者への対応面において職員も安心感を持って他の業務にあたることができる。</p>
<p>③介護ロボット導入に関しての介護従事者の意見 ※介護ロボット導入前との介護業務に係る負担の比較、使い勝手等</p> <p>○導入前はセンサーの利用に否定的な意見(拘束に繋がらないか、コールがあっても対応できない時もあるので意味がない等)もあったが、事故の発生が防げている事、必要なタイミングで訪室することができるメリットを実感できている。 ○過度に反応するなどの不具合についても特に発生してはいない。</p>
<p>④次年度以降の介護ロボットの使用計画 ※①、②、③を踏まえたうえで、より効果的な次年度以降の使用計画</p> <p>○どの時間帯でセンサーが反応しやすいのかデータを取ることで、要注意の時間帯以外で他の業務を組み立てていくことでより効率的な支援を目指していく。</p>

## R1年度介護ロボット等導入事例

## 導入した介護ロボット等の情報

種別	商品名	メーカー名
見守り	電動ベッドエスパシアシリーズKA-1410J ナースコール中継ユニットNU-1620	パラマウントベッド(株)

## 導入した事業所の情報

利用定員数	介護サービスの種類
30人	介護老人保健施設

## 使用状況及び導入効果等

<p>①介護ロボットの使用状況（使用した業務・使用頻度等）</p> <p>認知症による見識障害や理解力、下肢筋力の低下等があり、転倒転落のリスクのある利用者の方のベッドに機器を設置し、利用者の方の動きの変化をセンサーにより把握することによって、状況に応じた対応を行っている。</p>
<p>②介護ロボットの導入によって得られた効果 ※介護時間の短縮、軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等</p> <p>○転倒転落の発生を未然に防ぐことができ回避することができた。 ○利用者に応じた設定ができたケースではセンサーが鳴ることでスタッフの安心感に繋がり、見回りの訪室回数も減らすことができた。また、スタッフの訪室回数が限定されたことにより、利用者の精神的負担も軽減された。</p>
<p>③介護ロボット導入に関しての介護従事者の意見 ※介護ロボット導入前との介護業務に係る負担の比較、使い勝手等</p> <p>○利用者の動きにより、アラームが頻回に鳴るため、訪室回数が導入前よりも増えているケースがある。 ○食事やおむつ交換などで日常生活の場面が変わることに対応がしにくい。</p>
<p>④次年度以降の介護ロボットの使用計画 ※①、②、③を踏まえたうえで、より効果的な次年度以降の使用計画</p> <p>利用者の方の動きに応じたセンサーの設定を見直すことにより訪室回数の軽減に繋げる。</p>

## R1年度介護ロボット等導入事例

## 導入した介護ロボット等の情報

種別	商品名	メーカー名
見守り	電動ベッドエスパシアシリーズKA-1410J ナースコール中継ユニットNU-1610	パラマウントベッド(株)

## 導入した事業所の情報

利用定員数	介護サービスの種類
80人	介護老人福祉施設

## 使用状況及び導入効果等

<p>①介護ロボットの使用状況（使用した業務・使用頻度等）</p> <p>○利用者がベッド上にいる場合に常時使用している。 ○使用対象者は、ベッドから自力で離床可能で、足元が不安定な方や認知症により転倒、転落のリスクが高い方に使用している。</p>
<p>②介護ロボットの導入によって得られた効果 ※介護時間の短縮、軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等</p> <p>介護ロボット導入前は、ベッドに端座位で座っている方に対しては、床にセンサーマットを敷く方法しかなく、離床センサー感知によりナースコールが鳴れば都度対応し、利用者の足がセンサーマットから離れない限りナースコールが鳴り続けたり、利用者に臥床を勧めてしまうこともあったが、介護ロボットを導入することにより利用者の安全が早期に確保でき、利用者に臥床を勧めることもなく、また、センサーが作動する回数も減ったので、訪室等の回数が減り、介護職員の労力が軽減した。</p>
<p>③介護ロボット導入についての介護従事者の意見 ※介護ロボット導入前との介護業務に係る負担の比較、使い勝手等</p> <p>○離床CATCHモードが数種類あり、状況に応じて設定できるので、使いやすい。 ○自力で離床可能で、移動や移乗時に転倒、転落のリスクがある利用者に離床モードで介護ロボットを使用したところ、ベッドから離れるとセンサーが作動するため、転倒、転落のリスクの軽減が図れた。</p>
<p>④次年度以降の介護ロボットの使用計画 ※①、②、③を踏まえたうえで、より効果的な次年度以降の使用計画</p> <p>まだ介護ロボットの機能を十分活用できていないところがあるので、今後は機能を活用し、利用者の安全対策や、自立支援への取り組みの充実と介護職員の労力軽減につなげたい。</p>

## R1年度介護ロボット等導入事例

## 導入した介護ロボット等の情報

種別	商品名	メーカー名
見守り	電動ベッドエスパシアシリーズKA-1410J ナースコール中継ユニットNU-1890	パラマウントベッド(株)

## 導入した事業所の情報

利用定員数	介護サービスの種類
57人	介護老人福祉施設

## 使用状況及び導入効果等

<p>①介護ロボットの使用状況（使用した業務・使用頻度等）</p> <p>徘徊による転倒・ベッドからの転落の危険性がある入所者の方の居室に機器を設置したベッドを配置し、内蔵されたセンサーによりナースコールへ通知することで、アクシデントを未然に防ぐ効果に繋がることを期待して使用している。</p>
<p>②介護ロボットの導入によって得られた効果 ※介護時間の短縮、軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等</p> <p>起き上がり・端座位・離床・見守りの中から入所者の状況に応じて対応方法を選択できることが大きな利点である。</p>
<p>③介護ロボット導入に関しての介護従事者の意見 ※介護ロボット導入前との介護業務に係る負担の比較、使い勝手等</p> <p>○既存のセンサーマットではナースコールが鳴った時点でアクシデントやヒヤリハットが発生している状態になっているのだが、このセンサー付きベッドでは事前に対応ができるのでは、と感じている。 ○導入してまだあまり期間が経っていないので、逆にセンサーがちゃんと反応するか不安で訪室する機会が増えた。</p>
<p>④次年度以降の介護ロボットの使用計画 ※①、②、③を踏まえたうえで、より効果的な次年度以降の使用計画</p> <p>センサー付きベッドの利点を皆が理解し、機器操作を習熟し、リスク管理に努める。</p>



## R1年度介護ロボット等導入事例

## 導入した介護ロボット等の情報

種別	商品名	メーカー名
見守り	電動ベッドエスパシアシリーズ KA-N1710J	パラマウントベッド(株)

## 導入した事業所の情報

利用定員数	介護サービスの種類
100人	介護老人保健施設

## 使用状況及び導入効果等

<p>①介護ロボットの使用状況（使用した業務・使用頻度等）</p> <p>○徘徊などによって転倒するリスクがある利用者の方の居室に機器を設置し、睡眠状態やベッド上での状態変化をモニターや携帯端末で把握することによって、状況に応じた対応を行っている。</p>
<p>②介護ロボットの導入によって得られた効果 ※介護時間の短縮、軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等</p> <p>○見守り機能によるスタッフの業務負担の軽減 ・夜勤時の見廻りの効率化を図ることができた。(利用者との1対1の対応がなくなった。) ・転倒リスクの回避、トイレ誘導・排せつ介助のタイミングを見極めることにより、心理的負担の軽減や事後の追加業務の発生を未然に防ぐことができた。 ○夜間時の訪室が必要時に限定されたことによって、利用者の精神的負担が軽減された。</p>
<p>③介護ロボット導入に関しての介護従事者の意見 ※介護ロボット導入前との介護業務に係る負担の比較、使い勝手等</p> <p>○見廻りの効率化が図られることにより、従来、見廻りをしていた時間帯を別業務に振り替えることができ、業務全体の効率が良くなった。 ○センサーの誤検知等によりアラームが頻繁に鳴るため、訪室回数が導入前よりも増えている。</p>
<p>④次年度以降の介護ロボットの使用計画 ※①、②、③を踏まえたうえで、より効果的な次年度以降の使用計画</p> <p>センサーの誤検知等があることから、センサーの設定感度を見直すことにより、誤検知による訪室回数の減少につなげる。</p>



## R1年度介護ロボット等導入事例

## 導入した介護ロボット等の情報

種別	商品名	メーカー名
見守り	ネオスケア	ノーリツプレジジョン(株)

## 導入した事業所の情報

利用定員数	介護サービスの種類
55人	介護老人福祉施設

## 使用状況及び導入効果等

<p>①介護ロボットの使用状況（使用した業務・使用頻度等）</p> <p>センサーマットを使用している転倒リスクの高い入居者の方の居室に機器を設置し、起き上がりや端座位などの状態変化をモニターや携帯端末で把握することによって、状況に応じた対応を行っている。</p>
<p>②介護ロボットの導入によって得られた効果 ※介護時間の短縮、軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等</p> <p>○訪室回数の大幅な削減にはつながっていないが、適時に訪室できることによる見守りの効率化が図れている。 ○転倒リスクの回避につながっていると感じている介護従事者は67%であった。 ○利用者の状況変化を端末等で把握できることにより、身体的な負担軽減及び心理的な負担軽減を感じている介護従事者は75%であり、負担が大幅に軽減された。</p>
<p>③介護ロボット導入に関しての介護従事者の意見 ※介護ロボット導入前との介護業務に係る負担の比較、使い勝手等</p> <p>○状態を確認できることにより、訪室までに余裕ができ心身の負担軽減になっている。 ○センサーの感度が敏感で、誤検知等で頻繁にアラートが入るため、画面確認及びアラートの解除操作が面倒。</p>
<p>④次年度以降の介護ロボットの使用計画 ※①、②、③を踏まえたうえで、より効果的な次年度以降の使用計画</p> <p>センサーの設置角度等を見直すことにより、誤検知等のアラート確認回数の減少に努める。</p>

## R1年度介護ロボット等導入事例

## 導入した介護ロボット等の情報

種別	商品名	メーカー名
見守り	眠りSCAN	パラマウントベッド(株)

## 導入した事業所の情報

利用定員数	介護サービスの種類
75人	介護老人保健施設

## 使用状況及び導入効果等

<p>①介護ロボットの使用状況（使用した業務・使用頻度等）</p> <p>○使用頻度:毎日(24時間)  ○対象者:新規入所者、状態変化にリスクがある方、睡眠・覚醒状態の悪い方等  ○使用方法:利用者の方のベッドマット下に機械を設置し、睡眠状態やベッド上での状態変化をリアルタイムでモニタリング(PCモニター)することによって、状況に応じた対応、分析を行っている。</p>
<p>②介護ロボットの導入によって得られた効果  ※介護時間の短縮、軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等</p> <p>○利用者の睡眠/覚醒/起き上がり/離床などの状態を集約・分析することによって、利用者の生活パターンを把握し、介護サービスの質の向上を図ることができた。  ○リアルタイムな状態把握により、訪室が必要時に限定され、スタッフの心理的負担が軽減された。</p>
<p>③介護ロボット導入に関しての介護従事者の意見  ※介護ロボット導入前との介護業務に係る負担の比較、使い勝手等</p> <p>○これまで知ることのなかった利用者の睡眠/覚醒/起き上がり/離床などの状態変化を知ることによって、利用者個々の生活パターンを把握することができた。  ○生活パターンの把握により、個別性の高い介護サービスの提供が可能になった。  ○リアルタイムに利用者の睡眠状態やベッド上での状態変化がわかるようになり、時に夜間においての不必要な対応が減り、スタッフ、利用者ともに精神的負担が軽減された。</p>
<p>④次年度以降の介護ロボットの使用計画  ※①、②、③を踏まえたうえで、より効果的な次年度以降の使用計画</p> <p>○設置するフロア(居室)やベッドマットレス(エアーマット)により、誤検知等がみられることから、通信環境の整備を行い、通信を安定させることにより、安定したリアルタイム状態を把握し、スタッフの心理的負担の軽減につなげる。</p>

## R1年度介護ロボット等導入事例

## 導入した介護ロボット等の情報

種別	商品名	メーカー名
見守り	眠りSCAN	パラマウントベッド(株)

## 導入した事業所の情報

利用定員数	介護サービスの種類
50人	介護老人福祉施設

## 使用状況及び導入効果等

<p>①介護ロボットの使用状況（使用した業務・使用頻度等）</p> <p>見守り支援システムにより            ①入居者の睡眠状態や動作をリアルタイムでモニタリング(状態変化をアラームで通知)→リスク動作に対して早期に気づき、事故の未然防止に努める。            ②利用者の睡眠/覚醒/起き上がり/離床などの状態を集約し、分析する→利用者の生活パターンを把握し、介護サービスの質の向上を図る。</p>
<p>②介護ロボットの導入によって得られた効果            ※介護時間の短縮、軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等</p> <p>○リスク動作に対して早期に気づくことで、転倒事故の回避につながった。            ○夜勤時の見廻りの効率化を図ることができた。(見廻りのための訪室回数が40%削減)            ○個別性の高い介護サービスの提供が可能になった。</p>
<p>③介護ロボット導入に関しての介護従事者の意見            ※介護ロボット導入前との介護業務に係る負担の比較、使い勝手等</p> <p>○見廻りの効率化が図られることにより、従来、見廻りしていた時間帯を別業務に振り替えることができ、業務全体の効率が良くなった。            ○リアルタイムで利用者の動作状況が分かることにより、スタッフの心理的負担が軽減された。</p>
<p>④次年度以降の介護ロボットの使用計画            ※①、②、③を踏まえたうえで、より効果的な次年度以降の使用計画</p> <p>○利用者情報を共有することによって、介護サービスの質向上を図る。            ○利用者の生活パターンを把握し、介護サービスの質の向上を図る。            ○看取り介護時に使用し、利用者の状態や、状態変化を把握し、利用者本人の負担の低減を図る。</p>

## R1年度介護ロボット等導入事例

## 導入した介護ロボット等の情報

種別	商品名	メーカー名
見守り	眠りSCAN	パラマウントベッド(株)

## 導入した事業所の情報

利用定員数	介護サービスの種類
18人	認知症対応型共同生活介護

## 使用状況及び導入効果等

<p>①介護ロボットの使用状況（使用した業務・使用頻度等）</p> <p>○眠りSCANをマットレスの下に設置することで利用者の睡眠/覚醒/起き上がり/離床などの情報を集約する。 ○リアルタイムでデータを確認し、個々の入居者の生活リズムに即したケアのプランを検討、実施する。</p>
<p>②介護ロボットの導入によって得られた効果 ※介護時間の短縮、軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等</p> <p>夜間の覚醒と離床のタイミングがわかるようになったことで、トイレ誘導、排泄介助のタイミングの予測がつくようになった。これにより、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務のスケジューリングがしやすくなった。</li> <li>・事後の追加業務の発生を未然に防ぐことができた。</li> </ul> <p>等の負担軽減効果があった。</p>
<p>③介護ロボット導入に関しての介護従事者の意見 ※介護ロボット導入前との介護業務に係る負担の比較、使い勝手等</p> <p>○夜勤の排泄介助がしやすくなった。 ○睡眠状態の把握を通じて生活改善への介入もできるようになり、入居者本人のQOLの向上にもつなげられるのではないかと考えられる。</p>
<p>④次年度以降の介護ロボットの使用計画 ※①、②、③を踏まえたうえで、より効果的な次年度以降の使用計画</p> <p>○より効果的に使用するために対象者の選定方法を検討する。 ○上記のような効果が示されているので、今後ベッド数に応じて増設を考えている。</p>